

編集後記

技報発刊にあたって

編集委員長 倉橋 天鑣彦

阪神高速道路公団では都市高速道路の計画・建設・管理の各部門において、毎年、設計・施工・調査・実験・研究等で数多くの貴重な成果をあげており、その一部は年次技術研究発表会や外部の各学会、専門雑誌等に発表されています。これらにより職員は、自分の直接担当する部門以外の内容についてある程度知り得ることができますが、その技術的成果を有効に利用しているかどうかは疑問であります。

公団ではさし当り簡便な方法で広く、職員に成果を知らしめる方法として、年次技術研究発表会があります。しかしこれは紙面、発表時間の制約により十分に執筆の内容を理解するに至っていないように思われます。こうした問題を避けるため、竹元理事が巻頭の言葉で述べておられますように、特に重要なもの、技術レベルの高いものについて、更に詳細に論じたものを印刷し、公団内外に広く配布するのが、成果の有効利用ならびに対外的技術P・Rの上で非常に有効であると考えます。

このような経緯から、阪神高速道路管理技術センターでは当センターの技術能力向上の一環として昭和54年11月に「阪神高速道路の建設・管理に関する技術委員会」を設け、公団発足当時からある、数多くの論文・報告の中から、前記委員会の委員および幹事諸氏の御尽力により審議していただいた13編の論文・報告をここに“技報”として創刊号を発刊することができました。これはひとえに各委員・幹事の諸氏を始めとして、多忙な勤務の合間に執筆していただいた方々の御協力によるものでここに深く感謝の意を表わします。

今回、阪神高速道路公団の“技報”創刊号がめでたく誕生できましたことは、我々公団職員の大きな喜びであります。この技報は公団技術職員に配布すると共に、管理技術センターで外部に販売することにしております。今後、技報は毎年1回発刊いたしますので、皆様の御協力、御鞭達によって、より良く発展させたいと思っております。